

蔵を活用したイベントを継続的に実施し、集客効果を高める

尾花沢市商工会

機関名	尾花沢市商工会			
所在地	山形県尾花沢市若葉町1丁目2番20号			
電話番号	0237-22-0128			
地域概要	(1)管内人口	2万2千人	(2)管内商店街数	3商店街
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数	1商店街	(2)会員数	31商店
	(3)空店舗率	29.7%	(4)大型店空き店舗数	1店
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成14年度 空き店舗対策事業

商店街を巻き込んだ「映写会」の実施等、通年事業の推進とイベントを実施

総事業費

3,048千円

【事業実施内容】

1. 背景

尾花沢市は、平成11年に山形新幹線が新庄まで延びたことで首都圏との交通の便が向上する一方で、郊外大型店への消費者の流出が進み、中心商店街は販売不振に陥り、空き店舗も増加している。加えて少子化などによる地域人口の減少が進み、中心市街地の過疎化が進むことが懸念されている。

こうした厳しい中心市街地の実情を踏まえ、平成12年度から行われている「空き店舗活用支援事業」への取り組みは、商店街の活性を取り戻す大きな手段と期待されている。まず、平成12年度には空き店舗の一部を改装し、「尾花沢夢ファクトリー」を開設した。地域情報発信施設として、顧客の誘引活動および交流の場として活用された。さらに平成13年度には、蔵を改装し、「夢の蔵」として、コンサートやギャラリーなど、誘客効果の高い事業を行った。

平成14年度はこれらの施設を活用し、顧客ニーズに応える通年事業として継続的に推進した。



尾花沢市内商店街の地図

2. 事業内容

空き店舗となっている蔵を活用した「ギャラリー事業」、「イベント事業」、「コミュニティスペース事業」を行い、商店街交流の場を創出した。さらには商店街活動に相俟って街区への誘客・集客効果並びに市民のコミュニティ施設としての機能効果を高めた。

(1) ギャラリー事業

- ・市内工房工芸展（上の畑焼、伊豆こけし、ステンドグラス、つる細工）
- ・「銀山温泉物語」写真展
- ・スイカの詩展
- ・「どうぶつ村の仲間たち」展
- ・伊藤力丸作品展
- ・古代雛・こけし雛展

(2) イベント事業

- ・夢の「蔵」開所式・工芸工房展
- ・「蔵」しゅくコンサート（ミニ音楽会、延べ4回開催）
- ・夢味覚祭（体験教室、フリーマーケット、収穫まつり）
- ・大類雅子さんの「読み聞かせの会」
- ・尾花沢郷土かるた発表会
- ・おひなさま月間（むかし語り部、ふれあい音楽鑑賞会、舞踊会、春のお茶会、音楽会）

(3) コミュニティスペース事業

- ・市民等へ小規模な集会等への会場貸出し
- ・広域広報事業（視察研修等への対応）
- ・委員会・作業部会等の開催



おひなさま月間に行われた舞踊会



「ミニ映写会」には大勢の子供たちが参加

(「空き店舗活用支援事業実施報告書」より)

尾花沢市商工会

(来館者数の推移)

	来館者数(推計)	主な事業
7月	2,500	7月20日オープン 市内工房工芸作品展 喫茶「すいかフェ」開所
8月	3,500	大類雅子さんの「読み聴かせの会」 工房工芸展（伊豆こけし、ステンドグラス、上の畑焼、 つる細工）
9月	3,000	パネル展示、キャラクター、商品紹介コーナー、土産品 紹介コーナー
10月	2,850	「ミニ映写会」 「夢味覚祭」 すいかの詩ギャラリー
11月	1,800	伊藤力丸個展2002 「どうぶつ村の仲間たち」展 昭和初期おばなざわ写真展
12月	1,800	「藏」しっくコンサート 「ミニ映写会」 年末行事「朝までトーク」
1月	1,500	体験事業 初春行事「だんご刺し」 「ミニ映写会」
2月	1,300	雪まつり協賛 尾花沢郷土かるた復元 かるたギャラリー展
3月	2,600	ひなまつり月間 尾花沢のむかし語り部 郷土かるた発表会 おひなさま舞踏会 ふれあい音楽鑑賞会（バイオリンの夕べ） 「藏」しっくコンサート（大正琴） 「春のお茶会」 ファイナルコンサート
総計	20,850	

【効 果】

本事業での活動は、中心市街地に位置する商業者にとって「大きな活路」と期待されるものである。地域内外への情報発信や中心市街地のコミュニティ機能を果たしており、尾花沢市基本ビジョンの実現化がもたらされつつあるという点でも、高い評価を得ている。

(1) 来街者の行動

観光目的の来館利用者は多く、地区内観光地「銀山温泉」からの回遊によるもので、本事業が交流人口の増加をもたらす大きな要因となった。商店街の「街づくり」活動意欲は高く、「歴史街道モニュメント事業」や「夜市事業」など自主的活動は活発化している。

(2) 現在の実施状況

情報発信施設としての機能を高めるとともに、尾花沢スイカなどの物産館的要素も含めて、民間によるグループの立上で事業を継続している。

(3) PR効果

本事業の認知度については、民放や地元紙等を通じ、パブリシティの報道を中心に言い認知効果は優れている（月毎のイベント等の実施）。

【課題・反省点】

(1) 本事業へのリーダー的人材の不足

(2) 空き店舗事業の主体性の欠如

(3) 補助事業終了後の事業継続、支援体制が懸念

【教訓】

(1) 資金の確保

補助事業としての捉え方、並びに継続性を考慮し事業体制の確立を図る。事業内容により収益性を求め、運用効果を高める。

(2) 街区との事業共有化

本事業により施設への集客・来館利用客の増加を図ることは可能だが、顧客の回遊性を見極め、「街区事業」との連携を行いさらに集客効果を高める必要がある。

【関連URL】

尾花沢市商工会 <http://www.shokokai-yamagata.or.jp/obanazawa/>